

漢文

漢文入門 漢文に親しむ

故事成語

「守株」(韓非子)



講師
渡辺恭子

学習のねらい

訓読の基本(1)(2)での学習をもとに、漢文の文章を読んできていきます。そのはじめとして、今回は故事「株を守る」を読みます。「株を守る」は、宋の国の人々に笑いものにされてしまった男の話です。なぜ男は笑いものになったのでしょうか。「株を守る」の内容を理解するとともに、故事成語としての意味も学びましょう。まずは、本文を今まで学習した「訓読のきまり」に従って読んでみましょう。

● 学習のポイント ●

- 〈一〉「故事」・「故事成語」とは何か
- 〈二〉本文を声に出して読む
- 〈三〉「守株」の現代語訳と話の背景、故事成語としての意味を考える

■ 「故事」・「故事成語」とは何か

「故事」とは、昔から伝わっている出来事や話のことをいいます。そして、「故事成語」とは、その「故事」がもとになって生まれた言葉のことです。

■ 本文を声に出して読む

漢文の学習では、訓読のきまりに従って、漢文を読めるようになること、そして、漢文のリズムに慣れることが最も大切です。訓読(「句読点」「返り点」「送り仮名」)の学習で学んだ知識を生かして、「株を守る」の文章を、声に出して何度も読んでみましょう。主な記号(漢字の左下に書いてある「返り点」については「訓読の基本(1)」の学習メモをもう一度確認してください。

■ 「守株」の現代語訳と話の背景、

故事成語としての意味を考える

「株を守る」は、兎が走って来て木の切り株にぶつかって死ぬといつ、二度とありそうもないことを見て、それが再び起こるのをじっと待っているという、何とも間抜けな男の話です。

ここに出てくる重要語句の意味を理解しましょう。

【語句の意味】

- ・田^{でん}……………畑／耕作地
- ・株……………木の切り株
- ・触れ……………突き当たる／ぶつかる
- ・因りて……………それによって／そこで
- ・耒^{すゑ}……………田畑を耕す道具
- ・冀^{こゝろが}ふ……………願う
- ・復た得べからずして……………二度と手に入れることはできず
- ・宋国の笑ひと為る……………宋の国中の笑ひ者となった

「株を守る」の話は、韓非^{かんぴ}という学者が書いた本の中に、伝わる話です。韓非は、紀元前二三三年まで活躍した思想家で、法律や刑罰を重んじる思想である法家思想を極めた人として有名です。韓非は、君主に対して「昔の方法をそのまま持ち込むのではなく、今に相応^{ふさわ}しい方法で人民を治めるべきだ。」と主張します。その時、自分の主張に説得力を持たせるための手段として、この寓話^{ぐうわ}を使ったのです。童謡「待ちぼうけ」の歌詞も「守株」の話から生まれました。

【故事成語「守株」の意味】

- ・「守株」(かぶをまもる・くひぜをまもる・しゆしゆ)
- ①いつまでも古いやり方にこだわって、新しいことに対処できないこと。
- ②進歩のないこと。



漢文

故事成語

「守株」(韓非子)

守株 『韓非子』

〈書き下し文〉

宋人有耕田者。

宋人に田を耕す者有り。

田中有株。兔走

田中に株有り。兔走りて

触株、折頸而死。

株に触れ、頸を折りて死す。

因积其耒而守株、

因りて其の耒を积てて株を守り、

冀復得兔。

復た兔を得んことを冀ふ。

兔不可復得而

兔復た得べからずして

身為宋国笑。

身は宋国の笑ひと為る。

【現代語訳】

宋の国の人に、畑を耕す者がいた。畑の中に木の切り株があった。(ある日)そこへ兔が走って来て、その切り株に突き当たり、首の骨を折って死んでしまった。(農夫は)そこで自分のすきを放り出して切り株の番をし、再び兔を手に入れようと待ち望んだ。(しかし)兔は二度とは手に入れることができず、彼自身は宋国中の人々の笑い者となった。

